ドアや引戸についての注意事項

お願い

風の強い時はドアや引戸を閉めて、必ずロックしてください。
ロックしないと、風の力でドアや引戸が急に開閉し、その衝撃による破損や、思わぬけがや事故につながるおそれがあります。

・ドアや引戸に寄りかかるなど、荷重をかけないでください。
ドアや引戸の破損によって思わぬけがや事故につながるおそれがあります。

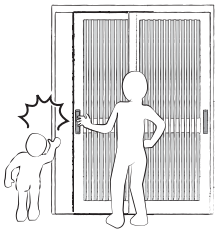
・ドアのそばを通る時は、ハンドルにぶつからないようご注意ください。
けがやドアの破損につながるおそれがあります。

・ドアや引戸の表面や金属部分は直射日光などで熱くなる場合があります。
やけどをしないようご注意ください。

・外出や就寝の際には必ずドアや引戸を閉め、全てのカギを確実にロックしてください。
また、ロック後は、ドアや引戸が開かないことを確認してください。

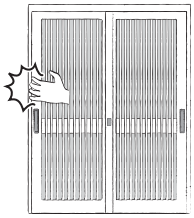
お願い

引戸（玄関引戸・勝手口引戸 など）



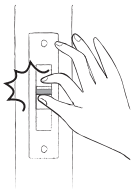
周囲に人がいないことを確認！

引戸の開閉は、周囲に人がいないことを確認してから行ってください。
引戸が人にぶつかったり、引戸で指をはさんだり、思わぬけがや事故につながるおそれがあります。



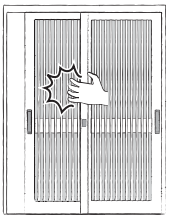
引戸と枠、引戸と引戸のすき間に注意！

引戸の開閉時に、引戸と枠、引戸と引戸のすき間に手や足を置かないでください。
指をはさんで、けがをするおそれがあります。



部品のすき間に注意！

引戸の操作部品や、可動部品のすき間に手や足を置かないでください。
指をはさんで、けがをするおそれがあります。



引手以外の部位を持って開閉しない！

引戸の開閉は、必ず引手を持ってゆっくり操作してください。
引手以外を持って操作すると、思わぬけがや事故につながるおそれがあります。

・引戸の開閉はゆっくり静かに行ってください。無理な操作や誤った操作をすると、引戸を破損するおそれがあります。

・引戸のロックなどの操作時に指をはさまないようご注意ください。
爪を損傷するなど、けがをするおそれがあります。

ドアや引戸の調整・お手入れ時の注意事項

●ドア・引戸の調整や、格子・網戸の取り付け、取りはずしについて

・周囲に人がいないことを確認し、安全に十分注意して行ってください。ドアや引戸が人にぶつかり、思わぬけがや事故につながるおそれがあります。

・誤って格子や網戸を落としたり、倒さないようご注意ください。

・不安定な台の上などで行わないでください。転落や転倒により思わぬけがをするおそれがあります。

・指定されたネジ以外は絶対にはずさないでください。また、取りはずしたネジを放置しないでください。乳幼児が飲み込まないようご注意ください。

・指をはさんだり、ドアや引戸の端部や部品の角などに手をぶつけないようご注意ください。けがをするおそれがあります。

電池についての注意事項

⚠警告

[強制]

電池から漏れた液が目や皮膚に付着した場合、すぐに水道水でよく水洗いして、医師の治療を受けてください。衣服に付着した場合は、すぐに水道水で洗い流してください。

[強制]

小型の電池は、乳幼児の手の届かないところに保管してください。万一飲み込んだ場合は、すぐに医師に相談してください。

⚠注意

[強制]

電池の使い方を誤ると、電池が発熱、液漏れ、破裂し、けがや火災、周囲を汚損する原因になりますので、以下を必ず守ってください。

- 電池の極性（＋／－）を逆に入れないでください。
- 長時間機器を使用しない場合は、機器から電池を取りはずしてください。
- 機器を高温の場所で使用、放置しないでください。
- 使いきった電池は、すぐに機器から取りはずしてください。
- 新しい電池と使用した電池や古い電池、銘柄の異なる電池などを混ぜて使用しないでください。
- 電池をショートさせたり、分解、改造、過熱したり、火の中に入れたりしないでください。
- 電池を落下させたり、投げつけたり、強い衝撃を与えないでください。
- 電池を傷つけたり、変形させないでください。
- 電池を濡らさないでください。

お願い

電池の種類は、製品仕様でご確認ください。（充電式電池は使用できません。）

電池を廃棄する場合は、お住まいの自治体の指示にしたがってください。

ご使用にあたって

商品を長く正常な状態でご使用いただくために、日常生活の中で気をつけていただきたい事項です。

●窓やドア・引戸、網戸の点検について

長期間、窓やドア、引戸をご使用になると、ネジのゆるみが発生することがあります。お手入れの際に商品のネジ部品がはずれたり、ゆるんだりしていないことを点検してください。
（➡ P.293「第６章　保守点検」）

●シャッターの点検について

長期間シャッターをご使用になると、部品の摩耗や劣化、汚れにより開閉しにくくなることがあります。定期的に清掃、点検を行ってください。
（➡ P.293「第６章　保守点検」）

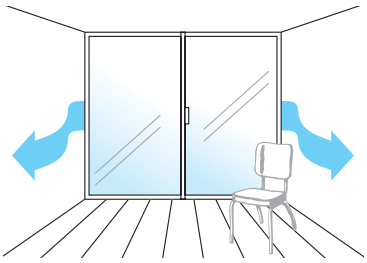
知っていただきたい現象

日常生活の中で『何かおかしいな…』と感じることがある現象も、窓の不具合ではなく、商品の特性に関連して発生する場合があります。

ここでは発生する可能性のある現象について、商品の特性を踏まえて説明しています。

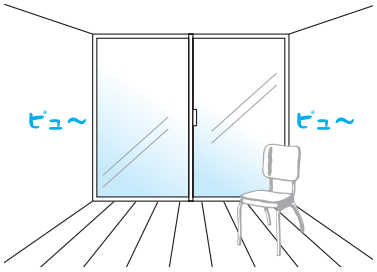
窓を閉めきった時のすき間風

窓を閉めきった時のすき間をふさぐために、枠や窓にはパッキンなどの気密部品を取り付けています。強風や季節風などによって室内外に気圧差が生じると、この気密部品の接触部分からすき間風が発生します。
これは自然現象のひとつであり完全になくすことはできません。
ただし、すき間風があまりに激しい場合は、窓各部の調整が不十分であることが考えられますので、調整をお願いします。
なお、換気扇を使用した場合は、強制的に空気を室外に排出するため、気密材と枠または窓の接触部分から空気が入ることがあります。



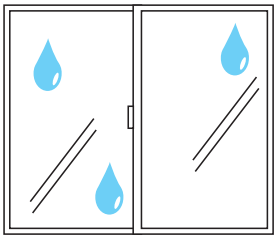
窓の笛鳴り現象

窓を閉めきった状態で換気扇を使用した場合、強制的に空気が室外に排出されると共に、同じ量の空気が窓のすき間などから室内に入り込もうとします。
気密部品と枠または窓の接触部分を通り抜ける空気が、笛を吹く状態と同じ現象を起こします。
これは自然現象のひとつであり完全になくすことはできません。
ただし、この現象は窓各部分の調整が不十分である時にも生じますので、調整をお願いいたします。
なお、強風時や高層マンションのように常時風が吹き抜ける所においても笛鳴り現象が起こることがあります。



結露について

結露は、室内外の温度差が大きく室内の湿度が高い場合、季節を問わず発生します。
これは自然現象のひとつであり、窓の不具合ではありません。
また、室内の環境状況によっては、断熱窓を使用していても発生する場合があります。
完全になくすことはできませんが、できるだけ発生を抑える方法として下記の点を心がけてください。

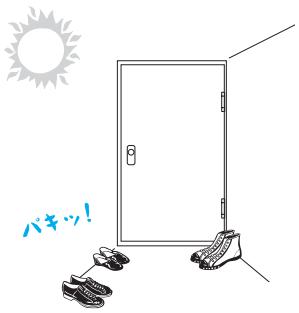


① 過度な加湿の防止（上限 60%）
② 換気の促進
③ 室温を適温に保つ
④ 空気の流れをよくする

『脱・結露のススメ』というパンフレットをご用意しております。
ご要望の方は当社お客様相談室までご連絡ください。（ 0120-20-4134）

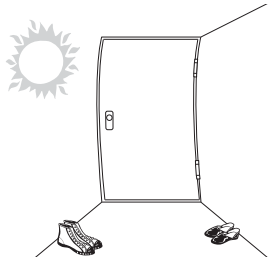
玄関ドアなどからの音鳴り現象について

玄関ドア・引戸は表面積が大きいため、太陽光を直接受ける室外側と、受けない室内側で温度差が生じやすくなります。
この温度差に伴い室内外面にわずかなゆがみと、たて横・大小の構成部材間で異なる熱膨張とが重なって摩擦が生じ、異音が発生することがあります。これは気温・立地条件・季節・使用材料の特性などの違いにより起こります。玄関ドア・引戸の不具合によるものではありません。
音は陽が高くなって外気温が上がったり、陽がかげると自然に止みます。



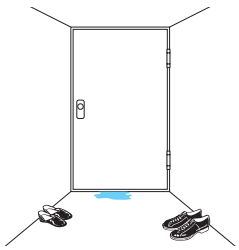
断熱ドア・引戸の熱反りについて

断熱ドア・引戸は室内外の温度を伝えにくい構造になっているため、日差しや室内外の温度差により、ドア・引戸本体室外側の面と、室内側の面で伸びる量に差が生じます。これにより、反りが発生する場合があります。
また立地条件、ひさしの形状により反り量は一定ではありません。一時的な現象であり、ドア本体の室外側と室内側の表面温度差が小さくなると元に戻ります。



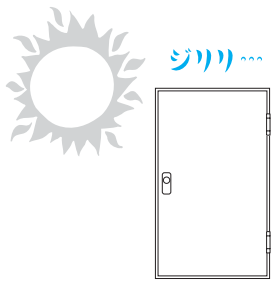
玄関ドアなどからの雨水浸入について

強風雨時など、ドア・引戸から雨水が浸入することがありますが、商品の不良ではありません。玄関はポーチ屋根により通常の風雨は防げますが、濡れたり、汚れた靴で入ることを想定して土間仕上げとなります。居室に使用される窓と同等の水密性能は、玄関には施されていません。
また、ドア・引戸の施錠機構は、窓に採用されているような枠と窓を密着させて雨水浸入を防止する引き寄せ構造にはなっていないのが一般的です。



玄関ドア・引戸の表面温度について

商品をご使用中、ドア全体が熱くなることがありますが、これは玄関ドア本体に長時間直射日光が当たることによる表面温度の上昇です。ドアの表面やハンドル等で特に、ブラック・ブラウンなど色の濃い商品ほど表面温度が上昇します。直射日光が強い時間帯はやけどをするおそれがありますので、開閉の際はご注意ください。



扉表面の白亜化現象（チョーキング）について

玄関ドア・玄関引戸などの扉表面材はカラー鋼板（表面に樹脂塗料を塗布し、意匠性を高めた鋼板）を使用しているものがあります。これらの商品は、ご使用いただいている間に紫外線、風、熱、雨、など様々な環境要因によって少しずつ色や艶があせて、建物の外観に即した落ち着いた風合いになっていきます。
さらに長い期間が経過すると樹脂塗料の塗膜が劣化して白っぽいチョークの粉をふいたような状態になることがありますが、これは白亜化現象（チョーキング）と呼ばれている、カラー鋼板の特性による経年劣化です。

経年劣化による白亜化現象（チョーキング）の進行を遅らせるポイント

- ドアの表面に付着した汚れを早めにお手入れする。

ガラスの熱割れについて

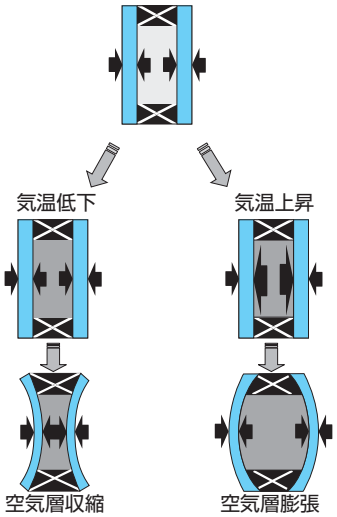
ガラスは熱によって膨張する性質を持っているため、直接日射を受ける部分と窓枠などの中に隠れている部分とで、温度の差による熱膨張差が生じます。
この熱膨張差がガラスの持っている「強度」を超えた場合、ガラスが割れます。
これが網入りガラスに多く見られる「熱割れ」と呼ばれる現象です。
ガラスに割れが発生した場合、すみやかに交換してください。

熱割れを予防するポイント

- ガラス面にカーテンやブラインドを密着させない。
- 暖房・冷房の温風・冷風をガラスに直接当てない。
- ガラス面に紙を貼ったり、ペンキを塗ったりしない。
- 室内に熱だまりを作らない。

複層ガラスのゆがみについて

複層ガラス面に反射して写る映像がゆがんで見えることがありますが、複層ガラスの構造上さけられない現象です。
複層ガラスの中間層は密閉された構造のため、温度や気圧の変化などによって内部の空気の収縮や膨張が起こります。これにより、ガラスが湾曲し表面に反射して写る映像がゆがんで見えます。特に Low-E 複層ガラスでは反射率が高いためゆがみが目立つことがあります。



ステンレスのさびについて

ステンレスは表面に独自の保護皮膜が形成されます。この皮膜は空気中の酸素が触れている間は優れた耐食性を示す性質を持っていますが、表面が汚れると酸素との接触が妨げられ、さびが発生することがあります。
特に下記のような場合は、さびが発生しやすくなります。

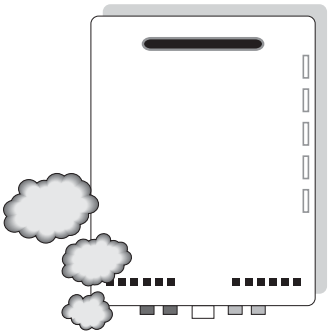
- 塩素系の洗剤がステンレス部に付着した場合
- 海岸沿いなどの環境において塩分が付着した場合
- 他の物のさびがステンレス表面に付着した場合（もらいさび）など

さびが発生した場合は、台所用クレンザー、市販のステンレス用清掃薬剤などでこすり落としてください。この場合表面にこすりキズがつくことはさけられません。「もらいさび」が落ちない場合は、さびが進行しステンレス自身にさびが生じたものと考えられます。

さびを予防するポイント

- 一旦発生したさびは落とすことが難しいため、日頃から中性洗剤（1～2%の水溶液）で、こまめにお手入れをする。

ガス給湯器などの排気ガスによる腐食について



ガス給湯器などからの排気ガスが、アルミ部材の塗膜のはがれなどの表面異常の原因となることがあります。
ガス給湯器などの排気ガスの成分には、微量ながら硫黄分が含まれている場合があり、この硫黄分が空気中や排気ガスの水分と化学反応を起こして、亜硫酸、硫酸のような強い腐食性の酸を作ることがあります。
これらの酸が塗膜表面に付着すると、塗膜自体を劣化させ、塗膜の下のアルミに達し、アルミとの化学反応によって塗膜はがれなどの表面異常を引き起こすことがあります。
また、ガス給湯器や車の排気ガスが直接当たらなくても、周辺の通気が悪く、排気ガスが滞留するような場所にアルミを使用した場合でも塗膜のはがれなどが起こるおそれがあります。

腐食を予防するポイント

- ガス給湯器および車の排気ガスが直接アルミに当たらないようにする。
- 排気口近辺にアルミ製品を設置する場合は、こまめにお手入れし、周辺の通気を確認したうえで使用する。

防火商品の白い結晶について

商品の特性上、結露水などにより窓やドアの表面に白い結晶が発生する場合があります。この白い結晶は無害であり、水拭きで拭き取ることで除去できます。

樹脂製商品への殺虫剤散布によるひび割れ、はがれについて

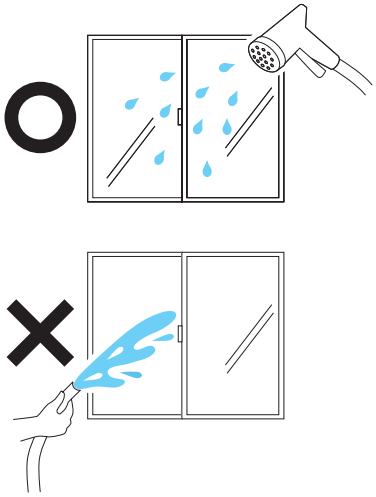
薬剤が付着すると、ひび割れやはがれが発生するおそれがあります。

ひび割れ・はがれを予防するポイント

- 殺虫剤などの薬剤を樹脂表面に塗布・散布し付着させないように注意する。

片引き窓、引違い窓、引違いテラス戸の下枠の雨水たまりについて

片引き窓、引違い窓、引違いテラス戸の下枠に雨水がたまることがあります。
これは、窓の水密性能を保持するために構造上必要な状態であり、不具合ではありません。

清掃時の散水による水侵入について

窓を閉めた状態で雨が室内側へ入らないよう、窓にはパッキンなどの気密部品が付いています。これは、強風を伴う降雨時を想定した所定の水密性能を確保するためのものですが、窓と枠すき間を完全に密閉するものではありません。
清掃時に、ホースや高圧洗浄機などで強く水をかけたり、下から上方向に水をかけたりすると、室内側へ水が入る場合があります。これは、水の勢いが強かったり、上方向に水をかけたりしたことで、通常の降雨を想定した窓の水密性能を超える状況となったことによるもので、窓の不具合ではありません。
清掃時は、草花に水やりする程度の水流で、下方向にシャワー状の水がかかるように散水してください。